

ロジスティクス
強調月間
2025

9 10 月



物流を楽しもう〜多様な物流改善が明るい未来をつくる

関西物流改善事例 発表会2025

会期: 10/30(木)
10:00~17:00

会場参加・オンライン参加選択形式で開催

開催形式 会場参加・オンライン参加選択形式

会場 TKPガーデンシティ大阪リバーサイドホテル 6階 バンケット6A
[大阪市都島区:JR桜ノ宮駅]

オンライン Zoom ウェビナー

主催

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
一般社団法人日本物流資格士会 西日本委員会

ロジスティクス強調月間2025サポーター 一覧

株式会社IHJ	クボタロジスティクス株式会社	株式会社ダイフク	株式会社日本海新聞社
アセンド株式会社	X Mile株式会社	中国通信資材株式会社	ハービット株式会社
株式会社アライブロバンス	コマツ	Tebiki株式会社	株式会社パーマンコーポレーション
株式会社あらた	株式会社サウガ	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社	株式会社ハンナ
E80グループジャパン合同会社	サカタウエアハウス株式会社	トーヨーカネツ株式会社	株式会社フジトランスコーポレーション
SBSリコーロジスティクス株式会社	サンコーイングストリー株式会社	株式会社豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー	船井総研ロジ株式会社
株式会社NTTロジスコ	株式会社ジャパン・リリーフ	株式会社トランストロム	株式会社フリーロケーション
王子物流株式会社	株式会社スピードロール	日通NECロジスティクス株式会社	三菱商事株式会社
株式会社オブティマインド	株式会社住友倉庫	日本貨物鉄道株式会社	株式会社ライノス・パブリケーションズ
花王株式会社	西部電機株式会社	日本通運株式会社	株式会社流通研究社
鹿島建設株式会社	センコーグループホールディングス株式会社	日本電気株式会社	株式会社ワールドスタッフ

関西物流改善事例発表会 2025

開催にあたって



関西物流改善事例発表会2025
実行委員会

委員長

マグチグループ株式会社
取締役 執行役員
万博事業本部 本部長

望月 彰

物流業界では、いわゆる物流2024年問題をきっかけに顕在化したトラックドライバー、倉庫作業員・スタッフ等の労働力不足がますます深刻な状況となっています。

そのようななか、2025年4月1日から、「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」（改正後の名称：「物資の流通の効率化に関する法律」）および「貨物自動車運送事業法」の改正がなされ、一部の規定が施行されました。これらの法改正により、全ての荷主企業や物流事業者に対して、物流効率化のための努力義務が課されることとなりました。また、一定規模以上の企業には物流効率化にかかる中長期計画の策定・定期報告や物流統括管理者の選任等が義務化されるほか、2025年6月4日に可決・成立したトラック新法により物流の持続可能性と効率性の向上に向けた取り組みが法的に強化されました。

物流・ロジスティクスを取り巻く環境が大きく変化していくなか、物流現場では先進技術の活用とともに環境変化に柔軟に対応し、現場が自発的に率先して考え改善する「物流現場力」の一層の強化が求められています。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会は、本年9月10月を「ロジスティクス強調月間」として定め、東京、名古屋、大阪、福岡の各地区で講演会、発表会を実施し、全国規模でロジスティクスの啓発、普及活動を展開しております。本年度は《ロジスティクスで未来を拓く～DXと連携が実現する次世代サプライチェーン～》を統一テーマとして、44機関のサポートのもと普及活動を実施いたします。

当協会関西支部では、ロジスティクス強調月間の一環として、ロジスティクスの高度化に寄与する物流現場の改善活動に焦点をあて、一般社団法人日本物流資格士会西日本委員会との共催による「関西物流改善事例発表会2025」を開催いたします。

本発表会では、「物流を楽しもう～多様な物流改善が明るい未来をつくる～」をテーマに、9件の優秀な企業事例を発表いただきます。

今回のプログラムは、現場担当者が知恵を絞った作業方法やプロセスの改善活動を中心に、最新技術の活用やパートナー企業との協働なども加わり、顧客サービス、物流品質、生産性の向上などに大きな成果をあげられた企業事例で構成されております。

また、特別講演では、三菱商事ロジスティクス株式会社 代表取締役 社長執行役員 田中 鉄氏をお迎えし、「従業員が活き活きと活躍し、能力を発揮できる環境づくりに向けて」をテーマにご講演いただきます。

物流現場改善に積極的に取り組んでいる企業の事例を通じ、物流現場における課題解決の手がかりや、改善ノウハウを得られる機会であると確信いたしております。

つきましては、本発表会に積極的にご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本物流資格士会は、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会およびその前身の団体の下で養成された、物流スペシャリストである「物流技術管理士」「国際物流管理士」「物流管理士」「物流現場改善士」による組織です。わが国唯一の物流スペシャリスト資格者による交流組織で、会員の相互研鑽ならびに物流に関する知識と技術の向上を図ると共に、関連諸機関と連携して物流の合理化を推進することを目的としています。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、物流の現場力の強化を目的に「物流現場改善推進のための手引書 改定版」を作成いたしました。⇒詳細およびダウンロードは、以下のページへアクセスしてください。<https://www1.logistics.or.jp/subdivision/kaizenbooklet.html>

関西物流改善事例発表会 プログラム

2025年10月30日(木)

10:00 ～ 10:05	開会 挨拶	関西物流改善事例発表会2025 実行委員会委員長 マグチグループ株式会社 取締役 執行役員 万博事業本部 本部長 望月 彰
10:05 ～ 10:20	JILSの 講演	「これからのロジスティクスのあるべき姿(仮)」 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
10:20 ～ 10:45	事例 発表 1	長距離路線分割による「2024年問題」への対応 江崎グリコ株式会社 SCM本部ロジスティクス部チルド冷凍輸送G リーダー 藤崎 太一 氏 那須工場から広島DCへの長距離運行が2024年問題に抵触したため、運送会社より那須工場から大阪DC、大阪DCから広島DCへの分割路線変更の相談を受けたことから、周辺路線の積載状況を精査し、全体の大胆な組み換えにより運行時間短縮とコストダウンを両立した。 【改善活動で苦労した点】 複数の転送便を効率的に組み替えていく際、積み込み時間と納品時間の調整、拘束時間の確認とリードタイムの変更が必要であった点。倉庫現場、運送会社と何度も説明と交渉を行った点。 【改善チームの自慢できるところ】 倉庫現場・運送会社双方にとって無理のない運行体制を構築できたこと、大きな課題に対してピンチと捉えずチャンスと考えて決断・改善策を一人一人が考えられるところが自慢できる点である。
10:45 ～ 11:10	事例 発表 2	反物(衣料品の生地)業務における入荷作業の効率化と 在庫管理の精度UP 丸二倉庫株式会社 善根寺営業所 吉村 竜馬 氏 誰でも出来る化、見える化、分かる化の観点から入荷仕分け看板の自動発行、ハンディターミナル (HT) を利用した入荷仕分け、棚番登録の効率化、入荷時の反物のハンドリングの改善を実施した結果、作業効率の大幅UPにつながった。 【改善活動で苦労した点】 現場作業員だけで出来る改善に限られていた為、関係各署に現状の困っている部分を細かく説明したり、現場を検証しながら改善点を洗い出し、新たなシステム開発とそれに伴う運用を軌道に乗せるところに苦労した。 【改善チームの自慢できるところ】 反物担当者だけでなく、様々な寄託者の担当者が集まっているチームの為、改善を行う際、他寄託者の業務運営を参考にして改善できるところである。若手からベテランまで幅広い年齢層のチームであるため、多角的な視点からの改善が自慢できる点である。
11:10 ～ 11:35	事例 発表 3	体系的相互応援の実現に向けて ～属人化からの脱却～ 株式会社NTTロジスコサービス 西日本マーケティングロジスティクスセンター 岩田 拓馬 氏 小野 純輝 氏 業務単位の管理により各々人のリソースを確保していたが、繁忙期等の波動に耐えられる体制でなかったため、荷量と生産性をもとにした必要人員数と応援可能作業をガントチャートで見える化し、過不足人員を業務間で融通することでコスト削減を実現した。 【改善活動で苦労した点】 活動初期は、「自分たちの業務領域が脅かされる」といった心理的抵抗が現場作業員間に根付いており、部門間協力の障壁となった。メンバー全員に活動目的を繰り返し丁寧に説明し、現場目線で納得感を醸成することに最も苦労した。 【改善チームの自慢できるところ】 改善チームの強みは、現場データを徹底的に分析し、根拠に基づいた最適化を推進できる点である。ガントチャートや業務フロー / 「求人票」を用いた「見える化」により作業員全員の理解・納得を引き出し、関係者協働による最適人員配置の実現につなげることができた。
昼休み65分／事例発表1～3の名刺交換		
12:40 ～ 13:05	事例 発表 4	国際コールドチェーンにおけるリーファーコンテナの 安全輸送実現に向けた取り組み 山九株式会社 神戸支店 営業グループ 井上 元喜 氏 冷蔵・冷凍輸送中に発生する商品ダメージを防いで輸出先へ安全に届けるため、商品ダメージの原因である冷蔵機器の故障削減に取り組んだ。冷蔵機器の故障削減に向け、コンテナ内にある冷蔵機器への貨物衝突を防ぐため貨物の振動や衝撃を抑える実証実験を実施した結果、従来10%台で推移していた商品ダメージによるロス率が1%に改善した。 【改善活動で苦労した点】 冷蔵・冷蔵品の国際輸送では、商品ダメージ発生率15%が当たり前との業界認識が根付いており改善に対する意識付けのため何度も実証実験を重ねた点が今回の改善活動で苦労した点である。 【改善チームの自慢できるところ】 物流分野の改善では安全性・コスト削減・作業性など複合的に課題をクリアしなければ持続可能な改善にならないが今回、諦めることなく最後まで取り組めたことが自慢できる点である。
13:05 ～ 13:30	事例 発表 5	現場の声をカタチに ～倉庫・工場との連携によるクレート洗浄作業の効率化～ 江崎グリコ株式会社 SCM本部ロジスティクス部チルド冷凍輸送G チルドオペレーションチーム 多田 進一 氏 チルド輸送メンバー全員が担当倉庫へ訪問し現場担当者との改善活動を実施し、大阪DPで実施していたデザートクレートの手洗浄(1日3パレット)を、工場での自動洗浄方式へ切り替えとともに、岐阜工場との協議を通じ、転送便の出発時間を前倒しすることで時間外労働を大幅に削減した。 【改善活動で苦労した点】 今回の改善活動では物流事業者・工場・ロジスティクス部と複数の部署間での調整が必要であった。ロジスティクス部として双方の要望を含めて最善策を講じることに苦労があった。 【改善チームの自慢できるところ】 複数部署とのやり取りの中で主体的に能動的にリードする意識を持ち、各部署の意見に耳を傾けて迅速かつ的確に対応できるところが非常に自慢できるところである。

13:30 ～ 13:55	事例 発表 6	共通化を考慮したサンルーフパレットの新規開発 株式会社アイシン・ロジテックスサービス 物流部 係長 谷口 大輔 氏 サンルーフパレットは製品サイズに合わせてパレット設計されていたが、パレット種類の増加と遊休パレットの保管スペースが問題となっていた。国内外40顧客145工場へ出荷されているオートマチックトランスミッションの共通化ノウハウを横展開し、改善に繋がった。 【改善活動で苦労した点】顧客が異なるパレットの共通化に合意を得ることに苦労した。また、サイズや形状の異なる製品群の共通化範囲を定めるための合議に苦慮した。 【改善チームの自慢できるところ】荷姿検討において、部分最適にとられず全体最適を常に意識し、既存概念に縛られない提案ができる点が、我がチームの誇れる強みである。
休憩20分／事例発表4～6の名刺交換		
14:15 ～ 14:40	事例 発表 7	～好かれる荷主になろう!～ 物流業務初心者が実現した積載率UPと待機時間削減 ホクシン株式会社 営業業務部 物流グループ 田端 直子 氏 積載率90%以上を目標に掲げ、各担当が1車ずつ荷姿を事前に検討することで、積載率が86.24%(2016年度)から最大94.5%(2024年度)に向上した。また、2023年度から待機時間のデータ化を開始し、積み込み倉庫の集約・リフトマン増員・受付システム導入によって待機時間50分以内を実現した。 【改善活動で苦労した点】積載率・積載を理解するため、トラック容積に収めるよう1台毎の積載図を紙に書き出した。待機時間:手書きの受付簿を2年分データ化するため、エクセル入力が必要だった。分散された積み込み倉庫の集約に苦労した。 【改善チームの自慢できるところ】部署4名のコミュニケーションが充実しており、全員で継続的な改善に取り組む姿勢を大切にしている。新しいシステムや情報に抵抗がなく、従来の枠組みにとらわれない方法でチャレンジできる。
14:40 ～ 15:05	事例 発表 8	倉庫の宝箱化プロジェクト ～メーカー系物流会社に取り組んだ モノづくり目線での「ムダ」から「付加価値」への大転換～ クボタロジスティクス株式会社 SAISプロジェクト 安本 菜月 氏 エンジンタイプ毎で異なるパレットを使用していたことで、生産ラインでは各種ロスが発生していたことから、新パレットを開発・導入し完全順序納入を倉庫内作業で実現した結果、製造目線ではムダの代表格である「倉庫」の機能を最大化し生産効率アップ（付加価値創出）のモデル構築に成功した。 【改善活動で苦労した点】対象のエンジンは100kg～300kgで大きさも仕様も生産工場も異なる約70種類。これらすべてをカバーできるパレット設計は困難を極め、3D-CADのデータを分析し、最適なパレットを設計・製作することにとても苦労した。 【改善チームの自慢できるところ】このプロジェクトは後工程である製造部門での付加価値創出の活動で、理想を現実とする活動のモデルケースである。この課題をエンジン技術・製造の各部門の協力と当社メンバーのノウハウを結集し、one-Kubotaで実現したこと。
15:05 ～ 15:30	事例 発表 9	新倉庫キャパシティ拡大に伴うスキーム変更と 物流コスト最適化 江崎グリコ株式会社 SCM本部ロジスティクス部チルド冷凍輸送G チルドオペレーションチーム 篠田 貴之 氏 新デポ移転に伴う保管容量（キャパシティ）拡大により保有在庫日数増加が可能になったため、仕入れ転送のスキームを見直し、工場⇒倉庫⇒倉庫⇒新デポの運用から工場⇒新デポの直送を実現した結果、中間コスト（保管料・荷役料）を削減することに成功した。 【改善活動で苦労した点】複数拠点を介する複雑なスキームであったため活動を進めて行く中で交渉する相手が多く、一つ一つ納得いく形で合意を得ていくことが苦労した点である。 【改善チームの自慢できるところ】倉庫移転という大きなイベントを実施する過程で、移転のみならず移転を機に最適化を意識して改善活動に繋げようとする意識の高さがチームとして自慢できる点である。
15:30 ～ 15:35		各発表者に記念品贈呈
休憩20分／事例発表7～9の名刺交換		
15:55 ～ 16:55	特別 講演	従業員が生き活きと活躍し、 能力を発揮できる環境づくりに向けて ・人材の確保と早期活躍に向けた研修等について ・マネジメント層の育成について ・多様な働き方を実現するための制度や 仕組みづくりについて ・従業員エンゲージメント向上に向けた取り組み 三菱商事ロジスティクス株式会社 代表取締役 社長執行役員 田中 鉄 氏 ■略歴 1993年4月、三菱商事株式会社入社。1998年1月、Mitsubishi International Corporationへ出向（2002年9月まで）（勤務地：ニューヨーク）。2014年7月、三菱商事ロジスティクス株式会社へ出向。アパレルソリューショングループ担当役員。2017年4月、三菱商事株式会社 物流事業部長。2022年4月、同社 タイヤ部長。2024年4月、三菱商事ロジスティクス株式会社へ出向。常務執行役員（兼）経営企画部長。2025年4月、同社 代表取締役 社長執行役員 就任。
16:55 ～ 17:00	閉会 挨拶	関西支部運営委員会 委員長 ダイキン工業株式会社 物流本部 物流本部長 生地 幹

※都合により講演者、テーマ等、プログラムが変更になる場合がございます。

実行委員会 委員一覧

委員長	望月 彰	マグチグループ株式会社	取締役	執行役員	万博事業本部	本部長
副委員長	新瀬 幸司	ワコール流通株式会社	代表取締役社長			
委員	上田 明広	株式会社インダ	執行役員	営業本部	営業管理部	部長 兼 建設工事管理室 室長
委員	山下 修司	株式会社NTTロジスコ	ICT事業本部	ICT営業担当部長	兼	茨木物流センター長
委員	榎 晃司	オムロン株式会社	グローバル購買・品質・物流本部	リージョナル物流部	日本物流グループ長	経営基幹職
委員	安沢 大輔	クボタロジスティクス株式会社	総務部	部長		
委員	篠原 武志	コイズミ物流株式会社	経営企画部	執行役員	部長	
委員	太期 健仁	コクヨサプライロジスティクス株式会社	物流本部	物流2部近畿IDC副統括所長		
委員	橋本 昌倫	佐川グローバルロジスティクス株式会社	営業部	関西エリア	エリアマネジャー	
委員	高木 健一	株式会社ジップ	取締役	ベネッセフルフィルメント事業本部	本部長	
委員	小阪 英智	センコー株式会社	広島支店	支店長 兼	山陽センコー運輸	代表取締役社長
委員	武田 重治	ダイキン工業株式会社	物流本部	企画部長		
委員	森口 哲博	ダイセル物流株式会社	安全品質推進部	部長		
委員	松本 良彦	大和物流株式会社	物流統括本部	営業部	部長	
委員	丸山 義弘	日本通運株式会社	関西アカウントセールス部	専任部長		
委員	板垣 大介	日本物流資格士会	西日本委員会	西日本委員長		
委員	山崎 幸哉	日本物流資格士会	西日本委員会	西日本委員		
委員	柴田 吉政	レンゴーロジスティクス株式会社	営業本部	西部営業部	九州営業部	部長

開催概要

名称	関西物流改善事例発表会2025
目的	経営環境が目まぐるしく変化する産業界において、重要性が高まっているサプライチェーンマネジメント・ロジスティクスを効果的に機能させ企業価値を高めるためには、経営その他の環境変化に柔軟に対応し、現場が自発的に率先して考え改善する「物流の現場力」の強化が欠かせない。 関西物流改善事例発表会2025は、物流改善の発表を通じ、顧客サービス、物流品質、生産性の向上、物流の高度化および労働力不足の解決の手がかりやヒントを参加者と発表者で共有することで、物流改善活動の更なる活性化を促進することを目的に開催する。
テーマ	物流を楽しもう～多様な物流改善が明るい未来をつくる～
会期	2025年10月30日(木) 10:00～17:00
会場	TKPガーデンシティ大阪リバーサイドホテル 6階 バンケット6A(大阪市都島区)
企画運営	関西物流改善事例発表会2025 実行委員会
事務局	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 関西支部

【関西物流改善事例発表会2024(前回) 参加者の声】

- 参加者Aさん(物流事業者):「地道な改善が多く、現場で参考になる取り組みを聞いた点がよかった。」
- 参加者Bさん(荷主企業):「荷主と物流企業が協働して改善した事例は興味深い内容だった。」
- 参加者Cさん(物流事業者):「働き方が多様化するなか、従業員目線で改善を実施している点がよかった。」
- 参加者Dさん(物流事業者):「改善のプロセスを動画でプレゼンしていた点がわかりやすかった。」
- 参加者Eさん(その他サービス事業者):「実際に発表を聞くことで、改善に至った背景やプロセスをより理解することができた。」

～物流現場改善に取り組む皆さんを応援します！～ 物流現場改善優良認定制度のご案内

日本ロジスティクスシステム協会では「物流現場改善優良認定」制度を2022年度よりスタートいたしました。本制度は物流現場改善に積極的に取り組まれている皆様の活動を応援すべく、物流現場改善の先進企業として認定することで、広く産業界に周知させていただくことをねらいとしております。



【物流現場改善優良認定 ロゴマーク】



ダイヤモンド



プラチナ



ゴールド



シルバー



ブロンズ

※提供したロゴマークのデータは名刺や会社案内等各種媒体へのご活用など自由にご活用ください。
※認定は年度ごとに実施しており、ロゴマーク自体に認定年度(西暦)が記載されます。なお、認定基準等につきましては当協会HPをご覧ください。

参加要項

参加申込規程

■参加料（会場参加・オンライン参加ともに同価格です。）

	参加料金（消費税込）
日本ロジスティクスシステム協会 会員 日本物流資格士会 会員	16,500円/1名
上記会員外	25,300円/1名

※上記料金には、昼食代は含まれておりません。

◆有資格者優待（フォローアッププログラム）

当協会では、有資格者のためのフォローアッププログラムを実施しております。本プログラムは、当協会主催の講座で習得した知識をより深め実践の場で活用できる能力を身につけたいという、有資格者からの強い希望を受けて、当協会認定の資格※をお持ちの方に、当協会主催のプログラムを、優待料金にてご提供するものです。実践力の強化、最新の情報収集の場として、ぜひご活用ください。

◇フォローアッププログラム参加料：11,000円/1名（消費税込）

フォローアッププログラムにお申し込み後、参加者が資格をお持ちでない方に変更になった場合は、参加料の差額を請求させていただきます。あらかじめご了承ください。

有資格者優待の該当保有資格をご確認ください。

※ロジスティクス経営士、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流技術管理士、物流現場改善士

■参加定員

●会場参加：150名（定員になり次第、締め切らせていただきます）

■参加申込方法

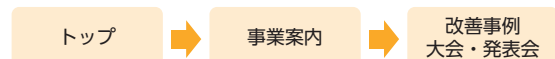
●WEBサイトからお申し込みください。

当協会ホームページの本プログラムのページより
お申し込みください。

※右記QRコードから「九州ロジスティクス講演会」専用ページにアクセスいただけます。

※QRコードは画面の傷、汚れ、光の反射等によって読み取れない場合があります。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



会場のご案内

TKPガーデンシティ 大阪リバーサイドホテル

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町5-12-30

交通のご案内

JR大阪環状線「桜ノ宮」駅徒歩3分

■参加料支払い方法

●WEB請求書で請求いたします。

●WEB請求書は原則としてお申込み手続きご担当者のE-mail宛に送付いたします。
それ以外をご希望の方は、協会への連絡事項欄にご指示ください。

●WEB請求書が届き次第、指定の銀行口座にお振込みください。

●お支払いは、原則として開催前日までお願いいたします。

※開催後になる場合は、参加申込書の支払予定日欄に明記してください。

※開催前日までに参加料のお振込みがなかった場合でも、自動的に参加の取消とはなりません。

●振込手数料はお客様にてご負担願います。

【キャンセル規定】

開催7日前～前々日（開催日を含まず起算）………参加料（消費税を除く）の30%

開催前日および当日 ……………参加料（原則として消費税を除く）の全額

※参加申込をキャンセルする場合は事前に問い合わせ先にお申し出ください。

■ご注意

●お申し込み時に会場参加もしくはオンライン参加をご選択ください。

●参加者全員にPDFテキストをメール等にて事前にお送りいたします。

※発表により、テキストデータ送付が不可となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

●会場参加者につきましては、開催日当日、会場にて冊子テキストをお渡しいたします。

※オンライン参加者には冊子テキストの配布はございません。

※テキストのみの販売はいたしておりません。

●スライド内容を撮影する目的での写真撮影および発表内容の録音はご遠慮ください。

事務局

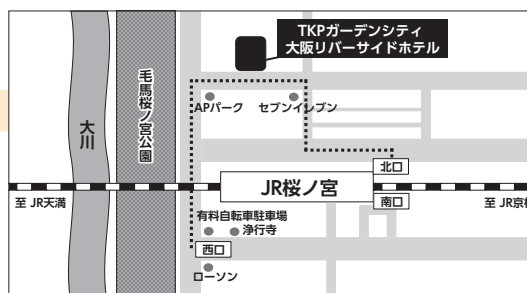
公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 関西支部

〒530-0001 大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル11F

e-mail : kansai@logistics.or.jp

個人情報のお取り扱いについて

当協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー（<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>）をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本発表会に関する確認・連絡・参加者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。



オンライン参加について

会場での発表をオンラインライブ配信（Zoom利用）いたします。

日本ロジスティクスシステム協会（以下「主催者」という）が定める「JILSオンライン研修受講にあたってご承知いただきたいこと」と、以下の事項に同意のうえお申し込みください。

<https://www1.logistics.or.jp/Portals/0/pdf/onlinekensyu.pdf>

●Zoomクライアントが使用できない場合はご参加いただけません。開催前に接続確認のご案内をいたします。

●本発表会の参加者は申込時に登録した参加者に限定し、1人1台のデバイスでご参加いただけます。

●主催者に起因する事由や不測の事態により通信が中断した場合は、録画した本発表会を期間限定で配信します。

●参加者に起因する事由により通信が中断した場合は、主催者は責任を負わないものとします。

●本発表会の録画、録音、撮影は禁止します。

●参加者により運営を妨げるおそれのある行為がある場合、対象者の聴講を中止する場合があります。

プログラム内容の
お問い合わせ先

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 関西支部

TEL.06-4797-2070 e-mail : kansai@logistics.or.jp

KA-2540